

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3 月 1 日

事業所名 児童発達支援センタークムレ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や成長に応じて環境を見直している。</li> <li>・活動内容を考慮し、子どもの人数や使用する部屋を決めている。</li> <li>・教室以外の場所(ホールや他の部屋)を活用した活動を取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改善目標</li> <li>片づけ、整理整頓を行いスペースを確保する。</li> </ul>
	2 職員の配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス外からも職員を配置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切ではあるが、散歩など大人と手をつなぐ必要のある子どもがいる場合は人手が少ないと感じる。</li> <li>・人数的には足りているが十分な支援ができる余裕は無い。</li> <li>・急な職員の休みになると人数が少なく感じる。十分な支援提供できず申し訳ない。</li> <li>●改善目標</li> <li>1月に職員2名増。4月にも増員予定</li> </ul>
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい建物は、段差がなくバリアフリー化している。古い建物は、段差があるがスロープを置き工夫している。</li> <li>・クラスキャップが児童の特性を考えながら工夫している。特性に配慮した結果、クラスによって空間の使い方は異なっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスによる違いがある。</li> <li>・古い建物は、構造化に費用と時間がかかる。</li> <li>●改善目標</li> <li>子どもの姿に応じて、環境を改善する。古い建物の一部分は改修する。マットなどを活用し、安全対策を講じる。</li> </ul>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後や活動終了後に掃除を行っている。</li> <li>・子どもの成長や変化に応じて柔軟に構造を変更している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隅々までできていない場所がある。</li> <li>・共有する部屋は、清掃が行き届いていない。</li> <li>・日々の掃除で清潔を保っている。子どもたちに合わせた空間にはなっていない時がある。</li> <li>・コロナ感染予防に向けた消毒は、改善の必要がある。</li> <li>●改善目標</li> <li>共有スペースは役割分担を再確認し、清掃する。感染防止に向け、消毒を徹底する。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容について、随時 職員間で話し合い、他施設を交えた会議で検討や振り返りを行っている。</li> <li>・面談や半期での聞き取りなどを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善について、非正規職員の意見を取り入れているが、少ない。全職員の参画までには至っていない。</li> <li>●改善目標 面談や書面で職員の意見や提案を聞き取り、業務改善に向けた話し合いを行う時間を設ける。普段から、広く職員の意見や提案を聞き取り、改善に取り組む。</li> </ul>
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価表は実施し公表している。</li> <li>・クラス職員は、日々保護者の意向を聞き取っている。</li> <li>・評価や意見等は、職員間で周知し改善があれば話し合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の評価表内容を、十分に職員で共有できていなかった。</li> <li>●改善目標 次年度は、職員向けに評価内容や、評価結果などを普段から共有に努める。</li> </ul>
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善した部分を、通信などで周知している。</li> <li>・毎年、保護者からの意向を把握し改善を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価や結果をHPに公開することを知らない職員がいる。</li> <li>●改善目標 職員会議などで伝える機会を増やす。</li> </ul>
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>開園当時より、3年毎に外部評価を受診し、改善活動を行っている。受診結果は、HPで公表している。</li> </ul>	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人主催の研修に常勤職員は参加している。</li> <li>・事業所でも毎月、研修を実施している。</li> <li>・新しく入職した嘱託職員向けに研修を行っている。</li> <li>・外部研修は、オンライン研修を受講している。</li> </ul>	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問、懇談、登降園時に聞き取りを行っている。</li> <li>・普段から、子どもの発達や家庭環境についてモニタリングし記録に残している。</li> <li>・子どもの成長、保護者支援について把握し、会議を行い計画を作成している。</li> </ul>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・アセスメント項目について、話し合いを行い改善している。 ・定期的フォーマットの見直しを行っている。	・全職員でアセスメントしているが、記録に残すのは正規職員が多い。 ●改善目標 ICTの活用や、正規職員以外も参加できるようクラス会議を行い、アセスメントできる環境を整える。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・子どもの姿、家庭環境、地域、保護者ニーズなどに項目分けして、支援の方向性を検討している。 共通認識を図りやすいように、具体的な支援方法を記述している。	●改善目標 支援に携わる職員が、「本人」「家族」「地域」の視点を持ち、考えや情報を共有し支援できるよう、話し合いの機会を増やしたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・職員間でそれぞれの子どもの通所支援計画を共有して計画に沿った支援提供を行っている。 ・勤務時間の短い職員も含め共有する時間(クラス会議など)を定期的に設けている。	・職員により対応が異なることがある。 ●改善目標 職員同士、互いの支援方法を批判することなく、改善を提案する風土を作る。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・クラス担任と児発管などが話し合い立案している。 ・クラス間で意見を出し合い、定期的に活動を変更している。	・クラスの主の職員中心に立案している。 ●改善目標 嘱託職員のクラス運営に対する意見や提案を定期的に把握する機会を設ける。 専門職も含め話し合い、支援する。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・活動の振り返りや反省をする時間を取っている。 ・子どもの姿に応じて、プログラムや内容を発展させている。 ・活動名は同じでも、ねらいを個に応じて変え、経験を積み重ねている。	●改善目標 半期や年度ごとの振り返りを行い、活動プログラムを見直す。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別活動」を実施する機会や場所、場面を子どもに合わせ実施している。</li> <li>・「集団」についても、人数に変化を持たせ、子どもの状況に合わせて支援している。</li> </ul>	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日や朝、打ち合わせの時間を設け、動きや配慮の確認を行っている。</li> <li>・一日の活動の流れを、それぞれの職員が確認できるよう視覚化している。主の職員が役割分担を伝えている。</li> <li>・一日の流れや子どもや家族の情報を、時間を設け共有している。</li> <li>・保護者と話す前には、話す内容を事前にクラス職員と確認している。</li> <li>・クラスノートを活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい内容まで説明する場や時間を設ける必要がある。</li> <li>●改善目標 クラスで支援する職員を、ある程度固定化することで情報を共有しやすい状況を整える。</li> </ul>
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を設け、振り返りを行っている。</li> <li>・時間が無い時は、メモやノートに書き残したりして伝えあっている。</li> <li>・作業しながら情報を共有している。</li> <li>・気づきを伝えあっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間が短い職員との共有が出来ていない場合がある。</li> <li>●改善目標 クラスで支援する職員を、ある程度固定化することで情報を共有しやすい状況を整える。</li> </ul>
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭で確認している。</li> <li>・特記事項は、記録に残している。</li> </ul>	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児発管や担任など、多くの職員で様子を見たり、モニタリング記録を確認したりしながら、計画内容の見直しを判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改善目標 さらに定期的に話し合う時間を確保する。</li> </ul>
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や家庭環境も把握し、児発管と担任が参画している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改善目標 今後は、専門職も参画できる体制である。</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・地区の保健師、病院の相談員、子相、障害サービスの相談員と、子どもの状況を共有しながら支援を行っている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		児童発達支援センター・くまの支援の方向性を、障害福祉課や保健師に伝えている。 ・保健師の見学訪問を受け入れている。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・病院のリハ訪問や、受診状況を共有し、支援を行っている。 ・主治医を訪問し、子どもの様子を確認している。	●改善目標 令和3年4月から、医療的なケアを必要とするお子さんを受け入れる。受け入れ前に、主治医訪問を行いケア内容を確認し教えて頂く。協力医療機関である医師へも報告し、助言をいただく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・並行通園を行う前に、相談員、園、保護者と職員、事前の調整会議を行っている。 ・並行通園開始後も、園へ訪問し移行できるように支援方法について話し合っている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・就学に向け、就学健診前に事前情報を書面や電話で学校へ伝えている。 ・就学に向け、年度末には情報共有を行っている。 ・就学後も、学校へ訪問し子どもの様子を見ながら、情報共有を行っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・法人内の児童発達支援センターと、今後のセンターのあり方について共有している。児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター、児童家庭支援センターとも情報の共有や、研修、助言を受けている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児は、保育園と一緒に活動する機会(週1回程度)を設けている。</li> <li>・全体でも、行事で交流する機会を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の機会の少ない園児さんもいる。</li> <li>・交流する機会はあるが、子ども同士の関わりに介入するのは難しい。</li> <li>・年長児以外のお子さんが保育園児と関わる機会が少ない。</li> </ul> <p>●改善目標 今後も継続して、行事などでの交流は行う。また散歩や園庭遊びなどにおいて、普段から接する機会を設ける。</p>
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		倉敷市 児童発達支援センターのセンター部会に参加している。	
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時や電話、ノートで共通理解を図っている。</li> <li>・子どもの様子を伝えたり、行動の背景を説明したり、保護者意見を聞き取りながら共通理解を図っている。</li> <li>・連絡帳に書かれた保護者のコメントを確認して、保護者と話をしている。子どもだけではなく、保護者の体調やメンタルにも配慮している。</li> </ul>	<p>●改善目標 ICTの活用も取り入れながら、保護者と情報を共有する手段や方法を増やしたい。</p>
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレント トレーニング、サポートブック、かがやき手帳を書くなど勉強会を実施している。</li> </ul>	<p>●改善目標 ペアトレに参加できない保護者向けに、様々な参加形態を提示したい。</p>
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に説明し、いつでも見ることができるように掲示している。</li> </ul>	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談時に説明し、保護者から同意を得ている。</li> </ul>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・自分で分からないことは、別の職員や上司へ相談している。 ・日々の相談は、支援中もしくは連絡帳で対応し、定期的に懇談を実施している。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・オンラインでおやじの会を開催している。参加される保護者もいらっしゃる。	・コロナの影響で、保護者同士の交流は中止になったものがある。 ●改善目標 3密を避け、感染対策も行いながら、保護者同士が交流できる機会を考え実施する。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・クラスノートを活用している。 ・個別に相談があった場合は、時間を設け対応している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月「クムレっ子だより」という通信を発行し、行事やセンターの近況を保護者へ発信している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・保護者がいる場では、個人情報を書かれたボードを裏返しにしている。	・廃棄する際の配慮が不足している。 ・名前入りの写真カードが事業所内に落ちていたり、他の保護者の前でお子さんの話をしたりする姿がある。 ●改善目標 個人情報の取り扱いについて、より慎重になるよう互いの行動を注意する。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・個別で説明したり、文字で伝えたりしている。 ・保護者に合わせた言葉を用いながら伝えている。	
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・3密を避け規模の縮小はあるものの、地域の子さんを受け入れる機会を設けている。 ・ボランティアで地域の方を受け入れている。 ・主任児童指導員の方に、行事でボランティアをしていただいた		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、防災訓練を行っている。</li> <li>・防犯について、警察に協力して頂き訓練を行っている。</li> <li>・感染上の実情に合わせ、感染マニュアルを見直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練はしているが、職員の危機感が足りない。</li> <li>・保護者への周知が不十分</li> </ul> <p>●改善目標 保護者への周知には、訓練後に実施状況や反省などを通信で伝達する。 職員の意識が高まる様に、訓練前に災害場面を想定した危険性を共有する。</p>
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3日分の食料を備蓄している。</li> <li>・法人全体で、南海トラフ地震を想定し、年2回訓練を行っている。1時間程度の断水、停電を想定した訓練である。</li> </ul>	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前に保護者に聞き取りを行う。入園後も、保護者に確認を行っている。</li> </ul>	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の意見書を提出して頂き、食事提供や活動を実施している。</li> </ul>	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼で周知している。</li> </ul>	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内の研修にて、虐待や子どもの人権について話をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の機会は少ない。</li> <li>・時間に追われ丁寧な関りが出来てない場合がある。</li> </ul> <p>●改善目標 虐待防止や適切な関りは、常に意識し見直すことができるよう定期的に振り返る方法を取り入れる。</p>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議を行い、身体拘束について組織として決定した内容を、書面で提示し、保護者へ口頭説明を行っている。支援計画にも記載し、保護者の了承を得ている。実施内容を、記録に残している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への事前相談と説明後の了解を知らない職員がいる。担任以外の職員とも情報の共有を行う。(身体拘束を行う子どもが居なかったため)</li> </ul> <p>●改善目標 身体拘束を行う場合は、会議で職員全体へ流れを説明し、周知する。</p>

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。